高校家庭科情報誌
開隆堂
Metis メティス
2023 May

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成、配布しております。

家庭科は花嫁修業なのか?! 毎年落胆する…

1989 年告示の学習指導要領において、家庭科は制度上男女平等の状況が整えられ、30 余年が過ぎた。しかし、小中高で女子も男子も家庭科を学んだ世代である大学生の中には、家庭科に対するイメージが性別で異なる人も多い。

性別は男女の二分ではないが、私たちの日々の暮らしや社会の仕組みなどでは性を男女のどちらかに分類し、異なる役割などを振り分けて社会秩序を保つ男女二元論の考えが深く組み込まれている。そのため、あえて大学の講義では「女子／男子にとっての家庭科とは？」を考えてもらっている。3 分の 1 の学生は「生活の質を向上させるもの」「生きていくために必要な教科」など男女で同じ回答をしている。一方、3 分の 2 の学生は男女で異なる回答で、「女子にとっては将来家事や育児に役立つ／男子にとっては一人暮らしに役立つ」「女子にとっては花嫁修業／男子にとっては一人暮らしに備えて必要」などが挙がっている。家庭科はいまだに花嫁修業なのか、また男性は結婚後家庭生活に関わることはパートナー任せなのかと毎年落胆する。学習支援アプリを用いて全体で回答を共有し、自分の考えや日常生活を振り返る中で、ジェンダー規範は根深く自分たちに刷り込まれていることに学生たちは気づき、驚いている。

制度上ではなく、実質的なジェンダー平等の家庭科教育の実現に向けて、ジェンダーという言葉を使わずとも、各分野でジェンダー平等を意識した授業を継続的に実践していく必要がある。例えば、家族・家庭生活においては、家族形態、民法と結婚、職業労働や家事労働（ディーセント・ワーク、名もなき家事や家事・育児・介護の経済的価値）などが考えられる。そして、男女別の並び方や色分け、役割分担における男女別の偏り、男女による進路の違いなど隠れたカリキュラムによりジェンダーを再生産したり、生きづらさをもたらしたりしないように教員や保護者の意識改革も望まれる。

藤田　昌子　Atsuko Fujita

博士（学術）。愛媛大学教育学部教授。
著書に「家庭科教育学シリーズ　第7巻　家庭科教育」（共著）－藝社、「安心して生きる・働く・学ぶ－高校家庭科からの発信－」（共編著）開隆堂など。論文に「現代社会における貧困問題に焦点化した高等学校家庭科実践の意義－格差社会における労働と福祉を中心として－」（共著）生活経営学研究、「高等学校家庭科におけるDV教育の研究－DVに関する授業実践からの考察－」（共著）家庭科教育実践研究誌など。

トピックス あなたもわたしもケアラーです！

1. はじめに

昔から子どもが家庭の手伝いをすることは良いことだと言われてきた。しかし、もしそれによって、心身の発達段階にある子どもが勉強や遊び、友人関係作り、様々な体験等を制限され、進路や選択肢を狭められているのならば、何らかの支援が必要だろう。ヤングケアラーの法的な定義は確定されていないが、日本ケアラー連盟ではヤングケアラーの具体例を次のように示している（●図 1）。

ヤングケアラーについては、厚生労働省・文部科学省による全国調査結果 (2021 年、2022 年) が公表されて以降、話題になっている（●表 1 ）。

●表 1　世話をしている家族が「いる」と回答した人の割合

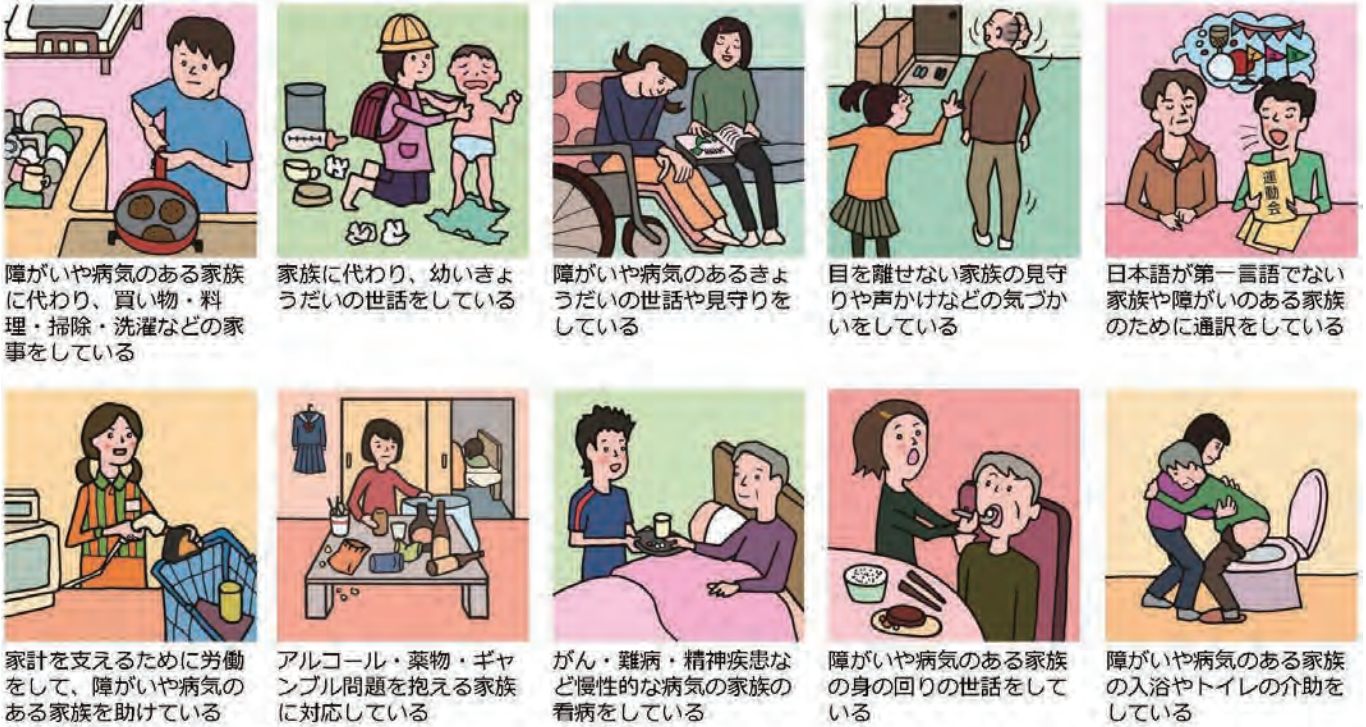
学年	世話をしている家族が「いる」と回答した人の割合(%)
小学校6年生	6.5
中学2年生	5.7
全日制高校2年生	4.1
定時制高校2年生相当	8.5
通信制高校生	11.0
大学3年生	6.2

参考：日本総合研究所「ヤングケアラーの実態に関する調査研究　報告書（2022年）」より筆者作成

中学 2 年生では約 17 人に 1 人、全日制高校 2 年生では約 25 人に 1 人が世話をしている家族が「いる」と回答したことになる。高校生は少ないように見えたが、実は定時制高校 2 年生相当（約 12 人に 1 人）や通信制高校（約 9 人に 1 人）の生徒には多くみられ、ケアをしているがために全日制に通えなかったとも考えられる。おおよそクラスに 1 人以上はヤングケアラーがいると捉えることもできるのではないだろうか。ここには、日常の行為が当たり前すぎてヤングケアラーであると自覚していない生徒や、ヤングケアラーであると自覚していても言わない生徒、言い換えれば潜在的ヤングケアラーがいるので、その数を含めれば実態はもっと多いはずである。

一人ひとりが傷つきやすい（vulnerable）人間であり、自分自身もケアされケアしていることを自覚した上で、自分らしい生活を送れないヤングケアラーの声に耳を傾け寄り添い共感できる力を育成していけば、今後の超高齢少子社会の日本で増え続けることが予想されるケアラーを受け止める共生社会に繋がるのではないだろうか。

●図 1　ヤングケアラーの具体例



©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

2. 授業実践
―ヤングケアラーへの気づきを促す授業―

■授業目的

ケアの多義性とヤングケアラーへの気づきを促すことを目的とする。

■授業実践者

齋藤和可子教諭（私立 N 高等学校）

■授業概要

1）本授業の位置づけ

高等学校学習指導要領　家庭基礎(平成30年告示)

A 人の一生と家族・家庭及び福祉

(2) 青年期の自立と家族・家庭ア、イと (5) 共生社会と福祉ア、イを組み合わせた題材

2）授業計画

時間	主な学習内容・活動
1･2時間目	ケアとは何か ・ケアの多義性について知識を得る
3･4時間目	ヤングケアラーの語りから考える ・『ヤングケアラー　わたしの語り(編著／澁谷 智子、出版社／生活書院)』から、班ごとにヤングケアラーのTEM(複線径路・等至性モデル)図を作成して起点を探る ・班ごとに発表し、ヤングケアラーの課題を探る

3）対象学年

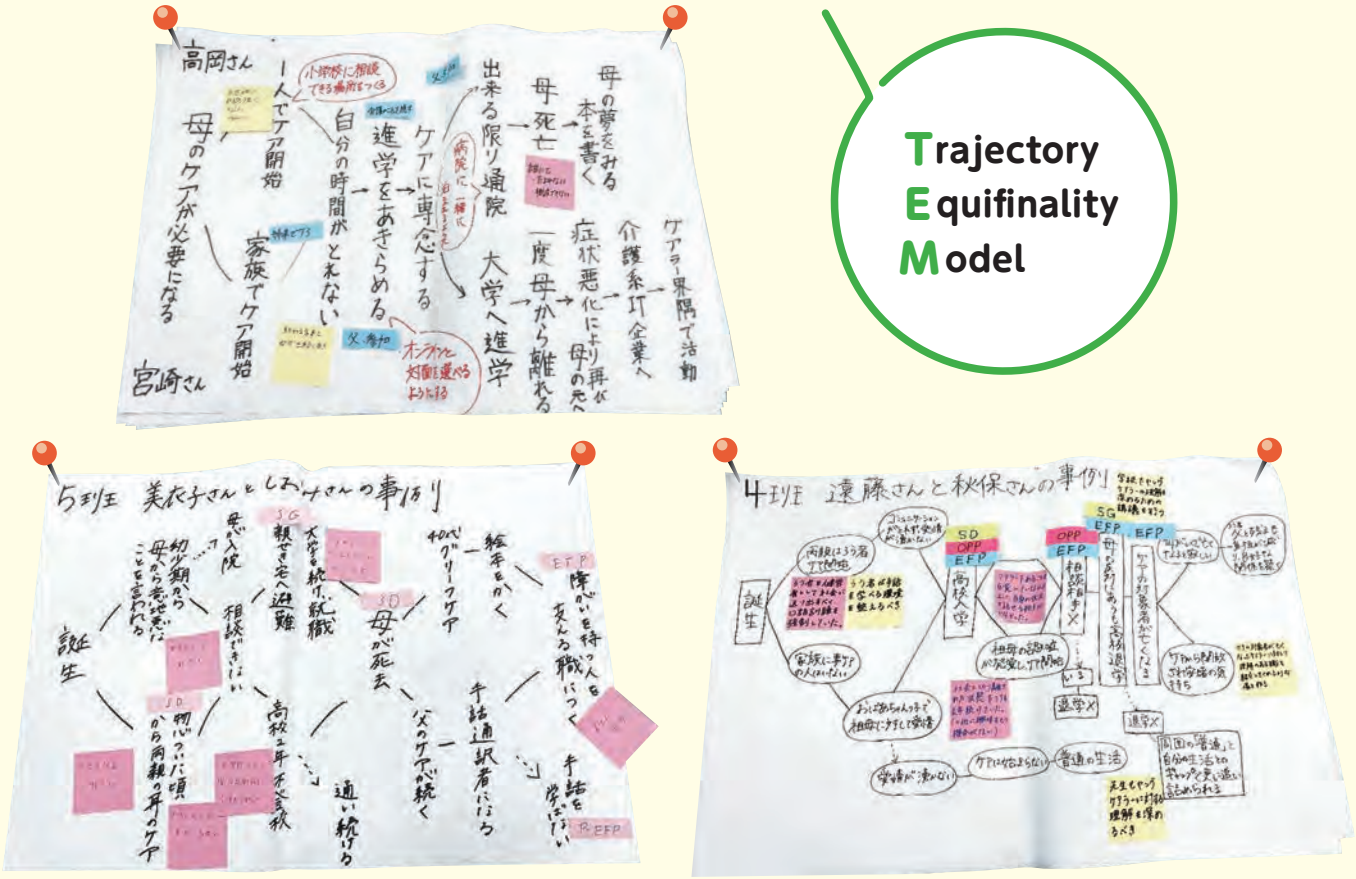
高等学校 3 及び 2 学年　計 88 名

■授業の様子

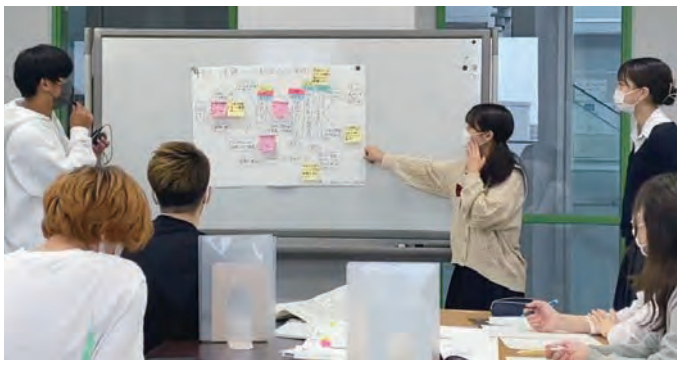
班ごとに 2 人のヤングケアラーの語りを読み、それぞれの経験を時間軸に沿ってまとめ、TEM 図（人生を時間径路に沿って、社会や文化に影響を受けながら選択する分岐点や通過点を探ることで、人間の発達や人生径路の共通性、または多様性を理解していくための図）を作成した（●図 2）。また、TEM 図をもとに、どの起点に問題があったのか、どのような行動を起こせばよかったのか、どのような支援が必要なのかを探り、発表した（●図 3）。

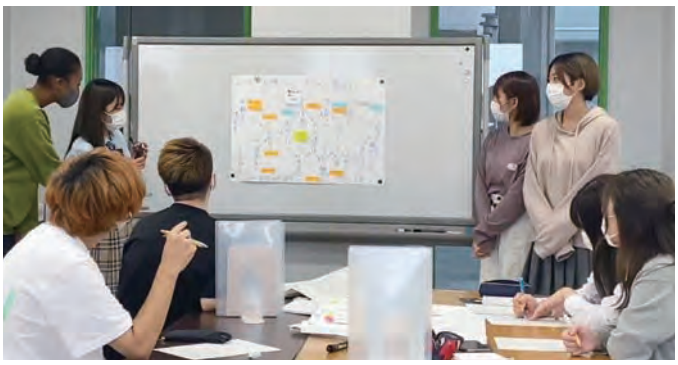
ある班では、2 人のケアラーの共通点として相談できなかったことを挙げた。また、母が亡くなった後、障がいをもつ人を支える活動をしているケアラーに触れ、孤立してしまっているケアラーたちが繋がる重要性を指摘した。さらに、ケアラーが自分の時間を取れず、一人でケアをしなければならなかったことに対して「小学校に相談できる場所を作る」という改善策を提案したり、「勉強をあきらめなくて済むように、オンラインと対面を選べるようにする」「病院に泊まれるようにする」など、ヤングケアラーに寄り添い、現状の生活を作り変えていくために学校や病院への要望を語ったりしていた。

●図 2　各班で作成したヤングケアラー 2 人の人生経路を示した TEM 図



●図３　発表の様子





■生徒の感想及び考察

・**「先生が知らないとまずいよね」「学校の先生にそういう視点がない」「何といっても先生たちがヤングケアラーに対する理解を深めてほしい」**という声が挙がった。学校全体がケアに敏感になりたいものである。

・TEM 図作成中に、生徒から**「友達がヤングケアラーだったら助けてあげられるだろうか？でも家族のことってちょっと立ち入りにくいよね…」「悩んでいても触れていいのかわからない」**という声が挙がった。不安や憂鬱、心配と共に慈しみや愛情などケアの両義性への理解を示し、複雑な気持ちを受け止めていたことがわかった。

・**「ケアって、ケアされる人が亡くなったら終わりというわけではないんだ」**というつぶやきがあった。生徒はケアを通して生きていく難しさを感じ、生きるということを考察していた。

・授業後**「母親の気持ちの浮き沈みがすごくて、自分もケアに近いことをしていると思う」**ということを語りにきた生徒もいた。これは、自分自身がヤングケアラーであることに気づき、またそれを言葉にすることができるケアの倫理に満ちた環境（教師との関係性やクラスの雰囲気）が作られたということでもある。

3. まとめ

人間は生まれた時から誰かのケアを受け、生き延びてきた。誰かにケアされ、誰かをケアしていることに寄り添うことは、人間として成長していくために大切なことであろう。授業の中で最も印象的だったのは、生徒から「死をケアの終了としていいのか」という疑問の声が挙がったことである。「人の死でケアが終わるわけではない」とつぶやき、悩みながら、人を気遣うことやケアすることの意味を考えており、教師自身もハッとさせられた。ヤングケアラーの例から、母の死後もケアに関連する活動を行っているケアラーがいることを知り、人と繋がることの重要さ、ケアが辛いだけではなく人間的成長をもたらすものであることを感じるとともに、他人に伝えることが憚られるというケアに潜む偏見や差別等、ケアの多義性を認識したことがわかった。生徒たちはヤングケアラーの人生に寄り添うことで、自分自身の生きてきた道筋を見つめ直し、生きることを考えていたのである。友達や教師と共に「生きる」という哲学的内容を学べることも家庭科ならではの醍醐味ではないだろうか。

また、筆者は別の高校で「自分たちが実際にできるヤングケアラーの支援策を考え実践しよう」というテーマで授業を行った。ヤングケアラーの認知度が未だ低く、啓発活動を行うべきだと考えた高校生たちは、ビラを作り、全校集会で発表した。この高校生たちは、想像力を働かせ、かわいそうな人としてではなく同じ高校生として同じ目線で考えたのである。

ヤングケアラーを題材にしたが、一方で自己理解、他人や制度に助けを求めるセルフアドボカシースキルを向上させていたと感じる。オープンマインドと言い換えることができるかもしれない。こうした学びが自分自身や自分の家族を見つめ直し、将来起こる課題に向き合う姿勢を培う助けになることを期待したい。

ヤングケアラーへの気づきを促す授業関連資料
・安田裕子・サトウタツヤ編著(2012)「TEMでわかる人生の経路―質的研究の新展開―」誠信書房
・齋藤美重子(2022)「ヤングケアラーの課題に照らしたケア教育―共生社会に向けて―」地域ケアリングVol.24 No.10、14
・齋藤美重子(2023)「ヤングケアラーを題材にした学習のデザイン―セルフアドボカシーが活きる共生社会に向けて―」家庭科研究No.372

齋藤 美重子（さいとう みえこ）
川村学園女子大学教授。家庭生活アドバイザー。編著書には「自然と社会と心の人間学」一藝社、齋藤ら(2023)「ケアラー・ケアド認識4類型とケア実践との関連―全国成人アンケート調査の検討から―」川村学園女子大学研究紀要第34巻、単著(2023)「ヤングケアラーを題材にした学習のデザイン―セルフアドボカシーが活きる共生社会に向けて―」家庭科研究No.372、単著(2022)「ヤングケアラーの課題に照らしたケア教育―共生社会に向けて―」地域ケアリングVol.24 No.10等

実践報告

多様な家族を多様なままに

1. はじめに

「家族の授業はやりにくい」という声が、度々聞かれます。それは目の前の生徒たちの多様な家庭状況への配慮からのことだと推測されます。しかし、その「傷つけないようにしよう」「触れないようにしよう」という配慮こそが「自分の家庭は普通ではない」という意識の再生産につながるのではないでしょうか。

生徒がこの先、個人として生きていくことまたは創設家族を築くことに対して、前向きな希望を持てるような授業とはどのようなものでしょうか。また生育家族について客観的にとらえられる授業とはどのようなものでしょうか。社会状況を適切に理解する授業、多様な家族を多様なままに取り扱う授業がそのきっかけになるのではないかと考え、実践に臨みました。

2. 授業の流れ

題材名：「家族ってなんだろう」（2 時間）
対象学年：高等学校２学年「家庭基礎」40 名×７クラス
学習目標：家族・家庭を取り巻く社会環境の実態を理解する。

授業の流れ	生徒の様子
４人家族の絵を見せ、関係性を考える。	・「『仲の良い家族』『夫婦』『親子』『きょうだい』に見える」という意見が多数。
寸劇「家族の朝」 ・代表８名のみ（４人×２班）。 ・「家族の朝」というテーマで、即興で演じる。配役および内容は自由。	・２班とも「父・母・子ども２人」という配役で演じた。 ・２班とも母が料理を作り、家に残った（専業主婦）。
講義「家族・家庭」とは ・家族、世帯などの用語を理解する。	
講義「様々な家族・家庭のカタチ」 ・様々な家族形態およびそれらの社会における割合などを理解する。	
再度、４人家族の絵を見せ、関係性を考える。	・「『ステップファミリー』『里親家庭』『事実婚』『同性婚』などの可能性がある」という意見が挙がった。 ・「授業冒頭時は『知らなかった』『言ってはいけないと思った』から理想的に答えた」という意見も見受けられた。
映像視聴「特別養子縁組の家族」 映像視聴「同性カップルと子育て」	・真剣な様子で見ていた。
「家族」を問い直す ・固定的な家族観探し。 ・実態に合った家族観、多くの人が生きやすい家族観とはどのようなものか。	・固定的な家族観として「アニメの家族」「父の日の宿題」「『ご両親』という言葉」「弁当作りは母が前提」などが挙がった。

3. 生徒の感想（実際の記述より抜粋）

私の家族構成は自分でもどう表すのかわからない。祖母、姉、私。世間から見たら独特だと思う。親が離婚して母、祖母、姉と暮らしていたけど、母が亡くなって３人で暮らし始めた。授業を受ける前、私の家族は普通ではないと思っていた。でも授業で見た映像の中で子どもが言っていた、「自分にはお母さんが二人いると思っている」という言葉を聞いて、家庭とは父一人、母一人、子どもである、という概念がなくなった。というより普通という概念がなくなった。一般と言われる家族像とは違うけれど、私は不幸だと思わないし、恵まれていると思う。祖母は私がさびしい思いをしたときに話を聞いてくれたり、一緒に泣いてくれたりするから。私は将来家庭をもちたいと思っている。今の家庭が幸せだから。授業でいろいろな家族のカタチを学べてよかった。

私の家庭は父がいない。母と兄の一人親家庭です。今までたくさんの偏見を受けたり、生活に支障があったりして、お父さんがいないのは恥ずかしいと思い隠していたこともあります。授業を通して、どんな形であっても自分が家族と思っていればそれは家族だと思いました。「お父さん、お母さん、子どもがいる家庭がスタンダード」だというものなんてなくて、価値観やリスクが多様であるなら、家族のカタチも多様で当たり前だと感じました。私は離婚したお父さんのことも今でもずっと家族だと思っているし、今の３人家族のカタチも他人の目なんて気にしないで、自分の中での最高な家族と思いたいです。

子どものうちは周りの環境などを選べることが少なく、良くも悪くも偶然というのを聞いて、今までのこと（小さいころに家庭で起きたこととか）に対して少し気持ちが軽くなりました。と同時に、自分は意外と恵まれているんだなと思うようになりました。これからは自分で選ぶことが増えていって、より「自分の人生」になっていきます。大変なこともあると思うけど、頑張っていこうと前向きになれました。

4. 授業運営時に意識していること

- 中立的な立場で進行しています。
- 多様な家族の当事者がクラス内にいる前提で授業を行っています。いることが当たり前というスタンスで話をします。
- 生徒の意見を否定しないよう気をつけます。語れる空気作りに努め、タブーは作りません。
- 自分の体験を語ることを強要はしません。
- 感情移入できる教材にこだわります。（それが「自分ごと」として考えることに近づくと考えています。）

野原（のはら） 慎太郎（しんたろう）

神奈川県立横浜清陵高等学校 家庭科教諭。1982年大阪生まれ。中学校から神奈川へ。東海大相模高校では野球部に所属し、３年春に甲子園優勝を経験。横浜国立大学へ進学し、同大学院修了。専攻は家庭科教育学と家族関係学。神奈川県教員採用試験に合格し、岸根高校、大師高校を経て、現任校４年目。教員１７年目。野球部監督。

メディア

Book & Movie

「人の一生と家族・家庭及び福祉」に関連する書籍と映画を紹介します。

Book 『ヤングケアラー　わたしの語り』

編者：澁谷（しぶや） 智子（ともこ）
生活書院
定価：1,500円＋税

本情報誌 p.3 に掲載の授業実践で使用された書籍。

「わたし、かわいそうですか？」
多様にあるケアの経験を、当事者だった７人が書き下ろした、それぞれの「わたしのストーリー」。
１章ごとに異なる７人のヤングケアラーが語ります。
第１章　誰のせいでもないし誰も悪くない
第２章　ノートの片隅から
第３章　障がいのある妹と私―「きょうだい」として感じてきたこと
第４章　ケアをめぐる価値観の違い
第５章　耳の聞こえない両親と聞こえる私
第６章　矛盾を抱きしめて生きるということ
第７章　母と過ごした時間について

Book 『自然と社会と心の人間学』

編著：佐藤（さとう） 真弓（まゆみ）・齋藤（さいとう） 美重子（みえこ）
一藝社
定価：1,800円＋税

科学・情報技術の発展に伴い、私たちの生活は以前よりも各段に便利になりましたが、経済発展と引き換えに私たちは多くの問題を後回しにしてきたように思います。温室効果ガスによる地球温暖化、地震、台風などの自然災害、超高齢少子社会の到来、医療と生命倫理の問題、AI の進展、若者のスマホ・ネット依存など、この社会の未来は不明瞭なことが多く、生きづらさを感じている方も多いのではないでしょうか。

そのような中で、生きるためのノウハウや技術ではなく、生きることの本質的な意味を再考したい、そして広く読者の方々にも最適な生活、人生について深く考えていただけたら嬉しいと願う有志が集まり本書が出来上がりました。ここでは、自然・社会・心の面から衣食住、消費、情報、共生をとらえ直し人間が生きるということを考えてみました。ですから家庭・生活・社会・道徳等の関連科目にも役立つ内容になっています。生きることの全容解明にはもちろん至っていませんが、読者に向けてといいながら、実は我々自身が執筆作業を通じて多くのことを学んだ一冊になったことも確かです。普段の生活や人生に迷い苦しみ、試行錯誤を繰り返しながらまた思索に耽る、これらの姿はまさに人間としての生きる様であり、生きる喜びでもあることを知ることができました。　（あとがきより）

Movie 『劇場版　きのう何食べた？』

倹約家で料理が得意な弁護士・筧史朗（シロさん）と、彼の料理をいつもおいしそうに食べる美容師・矢吹賢二（ケンジ）。物語の中心は、同性愛カップルであり、同居する２人の料理や食事のシーンです。そこに、お互いの関係性に関する出来事、例えば別の同性愛カップルとのやりとりや、実家の親との確執、職場でのエピソード等が加わって物語はゆっくり進行していきます。　（編集部より）

劇場版「きのう何食べた？」通常版
DVD好評発売中
定価：4,180円（税抜価格 3,800円）
発売元：テレビ東京
販売元：東宝
©2021 劇場版「きのう何食べた？」製作委員会©よしながふみ／講談社

Information —インフォメーション—

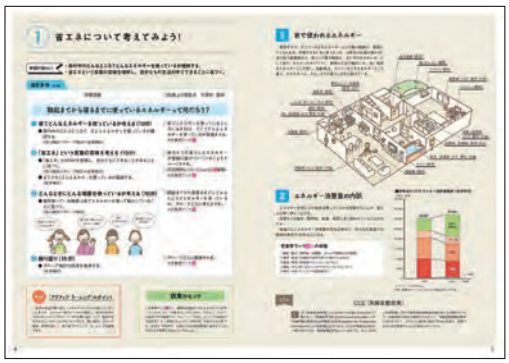
【図書紹介】

『省エネ行動スタートBOOK』

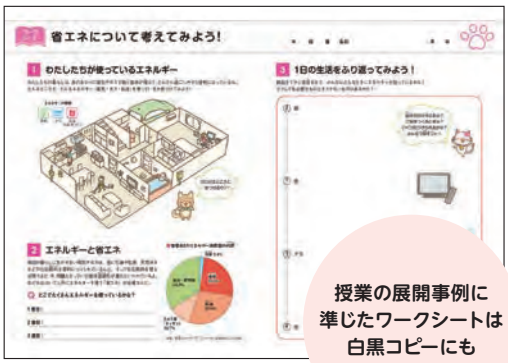
米国では NEED（National Energy Education Development）というエネルギーに関する体系的なプログラムがありますが、本書はそれにアイディアを得て、省エネ行動についてより学校現場で指導しやすいものを！ということで作成されました。

本書は主に小学生を対象としていますが、中学生・高校生でも十分活用できる内容となっています。テーマごとに、①授業の展開事例、②指導に必要な解説やデータ集、③コピーしてそのまま使用できるワークシートで構成されています。基本的に「家庭」の学習指導要領に対応した内容となっていますが、「社会」「理科」「総合的な学習の時間」などの授業においても有効に活用していただけるよう、それぞれの学習指導要領に対応する部分も示しています。授業の進め方に合わせ、さまざまな教科でご活用いただければ幸いです。

2023年5月発行　A4判 80ページ
定価1,760円（本体1,600円）



「1　省エネについて考えてみよう！」
（p.6-7より）



授業の展開事例に
準じたワークシートは
白黒コピーにも
対応

ワークシート
「省エネについて考えてみよう！」
（p.8-9より）

『LOOK UP!!　資料集+食品成分表』

生徒が生活の中の課題に気づき、考えを深められる資料集です。

2022年4月発行
B5判 144ページ
定価690円
（本体627円）

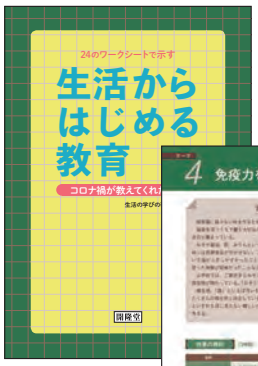
各内容の
関心が高まる
コラムやデータ

疑問や気づきを
深める探求的な
課題

探究的課題　論題
「命を支える」「ケアって何？」
（p.84-85より）

『生活からはじめる教育』

教員と研究者で共同討議を重ねた授業プランを多数掲載しています。



2021年3月発行
A4判 144ページ
定価1,650円
（本体1,500円）

この教材一つで
小学生から社会人
まで学べる

「考えてみよう」
「話し合ってみよう」
を中心にした
ワークシート

「テーマ4　免疫力をあげる発酵食品」
（p.40-41より）

（編集部）

Metis 2023 May 非売品
令和5年5月26日印刷　令和5年5月30日発行　編集兼発行人　岩塚太郎　アートディレクション・DTP／パシフィック・ウイステリア
発行所／開隆堂出版株式会社
〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1　03(5684)6121［営業］　03(5684)6118［販売］　03(5684)6116［編集］

KAIRYUDO 開隆堂出版株式会社
〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社　〒060-0042 札幌市中央区大通西11-4-21 52 山京ビル7階　☎011(231)0403
東北支社　〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4階　☎022(742)1213
名古屋支社　〒461-0004 名古屋市東区葵1-15-18 オフィスサンナゴヤ9階　☎052(908)5190
大阪支社　〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16　☎06(6531)5782
九州支社　〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 ＦＹＣビル3階　☎092(733)0174